

ダビンチは、患者さんの 体への負担が少ない(低侵襲)手術を 支援するロボットです。

手術は、執刀医がダビンチをコントロールしながら行います。



① サージョンコンソール

執刀医が座る操縦席です。3Dモニターで10倍に拡大された術野を確認しながら、手元のコントローラーで鉗子を操作します。



② ペイシェントカート

執刀医の手の動きをロボットアームが忠実に再現。アームにはコンピューター技術による手ブレ補正機能が搭載されています。



③ ビジョンカート

ダビンチの「頭脳」および「目」としての役割を担い、あらゆる機能を司ります。

手術支援ロボット ダビンチ〈da Vinci〉サージカルシステム

ダビンチ手術は、腹腔鏡手術と同じように、体にいくつかの小さな穴を開けて行います。

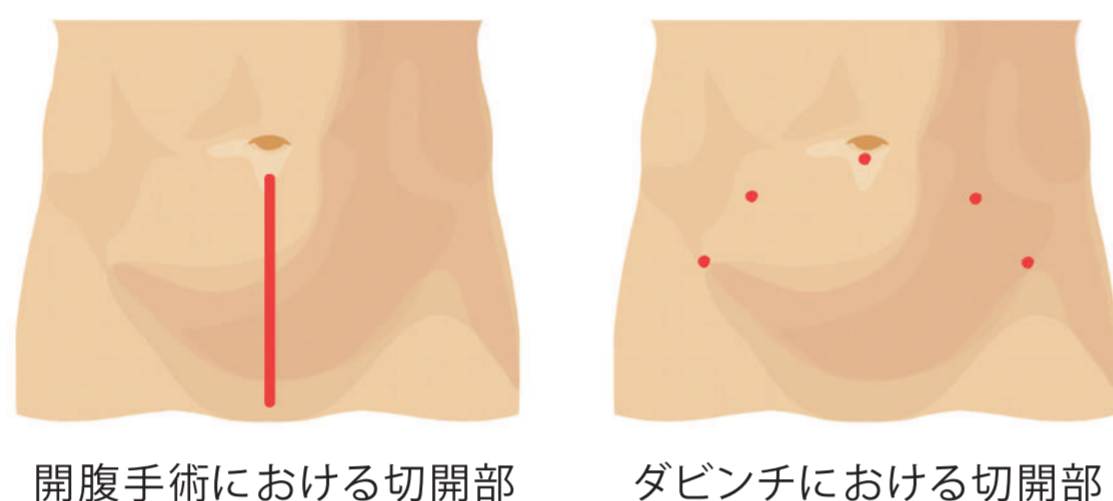
執刀医は、3Dモニターで10倍に拡大した術野を見ながら、手元のコントローラーでアームに装着した鉗子を操作します。手首以上の可動域を持つ鉗子とコンピューター技術による手ブレ補正機能により、正確で安全性の高い手術が期待できます。



ダビンチ手術は必ず執刀医により行われます。
ロボットが勝手に動くことはありません。

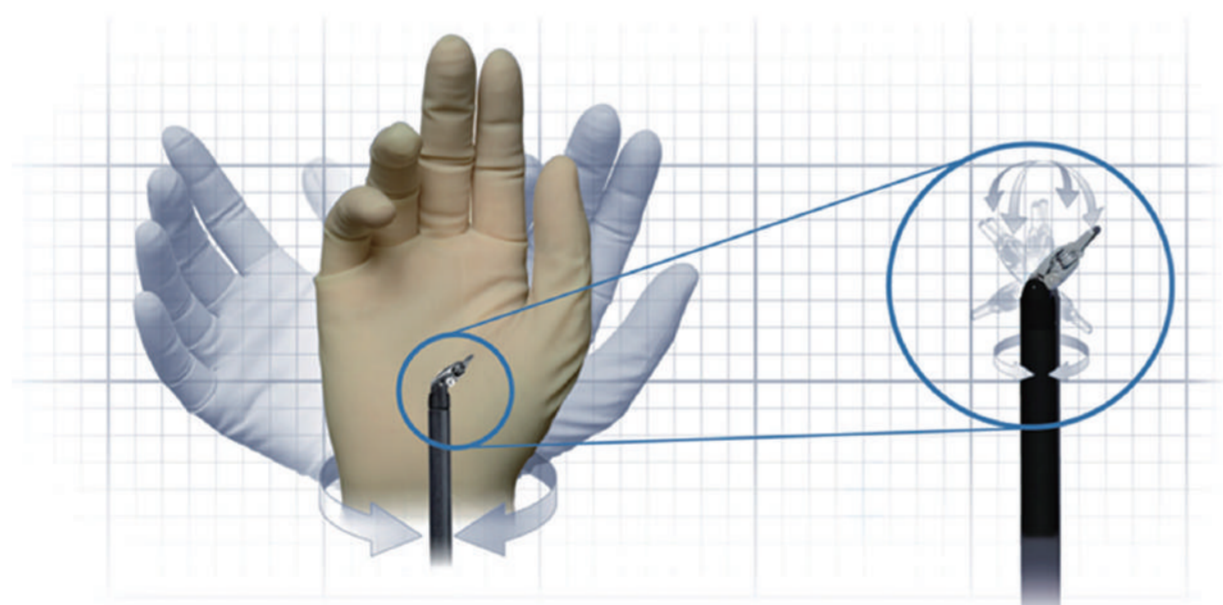
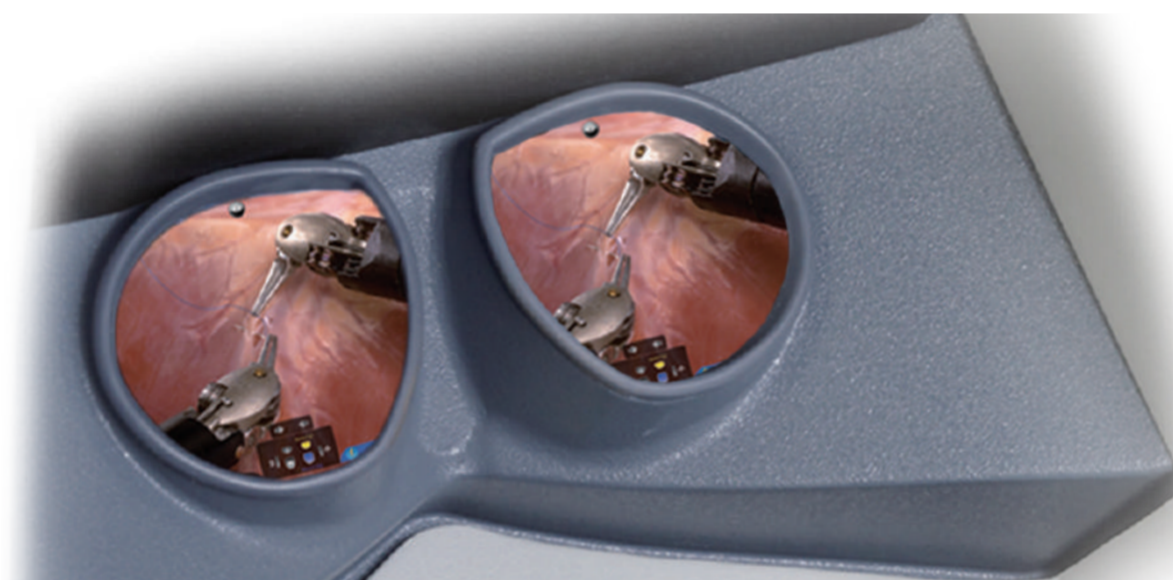
この度、当院に導入いたしました。

ダビンチ手術は
世界で行われており、
これまでに手術を受けた
患者さんは延べ500万人を
超えています。○(2017年現在)



開腹手術における切開部

ダビンチにおける切開部



ダビンチによる 「ロボット支援手術」の特長

患者さんの体への負担が少ない

きず口が小さくて済むため、
出血が抑えられ、体への負担を軽減。
術後の早期回復が期待できます。

術野は鮮明な3D(3次元)画像

執刀医は、3Dモニターで10倍に
拡大した術野を見ながら、ロボットアームに
装着した鉗子を操作します。

人の指先以上の動きを実現

ダビンチの鉗子は手首以上の可動域を持ち、
コンピューター技術が手ブレを補正するため、
正確で安全な手術が望めます。

世界で培った手術実績

世界で年間約80万例の手術に用いられ、
患者さんは延べ500万人
(2017年現在)を超えています。

2018年4月から、ダビンチによるロボット支援手術の健康保険の
適用範囲が広がりました。詳しくは主治医にお尋ねください。